

## 【漁況】

### [マアジ]

#### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成26年は14万6千トンとなりました。

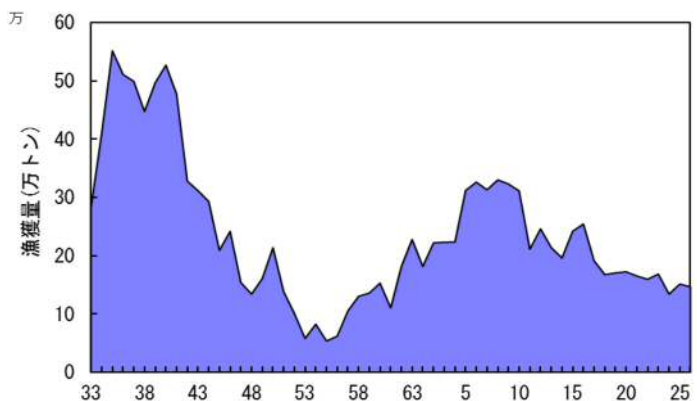


図 全国のマアジ漁獲量の推移

#### 2. 県内の平成28年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、串木野沖、甕島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域では、開聞沖、野間池沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、マアジ仔・豆（0歳魚：平成28年生まれ）主体に、期全体で527トンの水揚げで、前年の139%及び平年の130%となりました。

#### 3. 県内の平成28年10～12月期の見とおし

漁獲の主体はマアジ仔・豆（0歳魚：平成28年生まれ）で、マアジ小（1歳魚：平成27年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

1歳魚以上の漁獲は低調に推移していますが、0歳魚の漁獲の継続が予想されることから、全体としては、前年・平年並と考えられます。

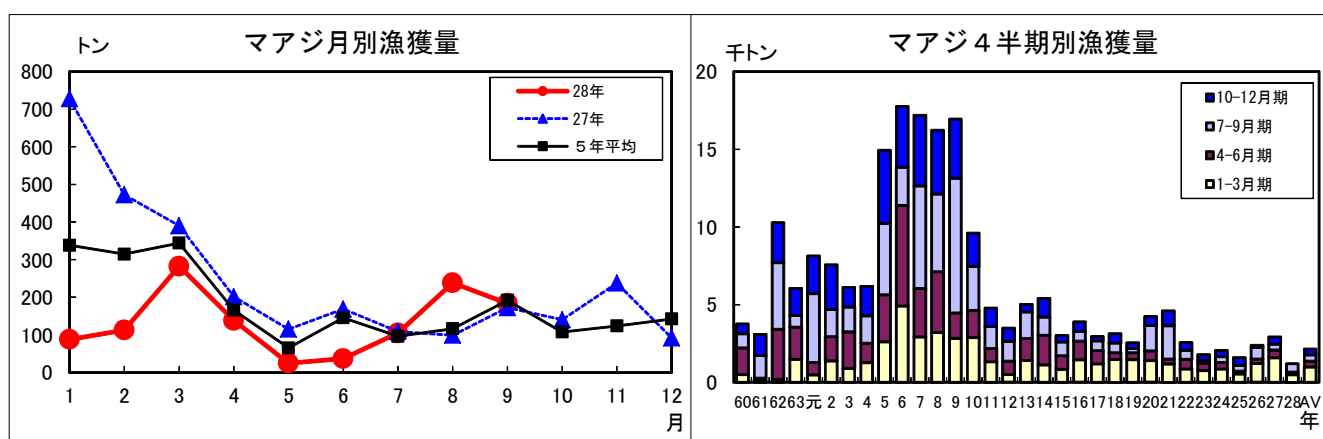


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)、平成28年9月28日までの水揚量を使用

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークに年々減少し、平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが、平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年には65万トンまで増加しましたが、その後減少傾向となり、平成26年は50万2千トンとなりました。

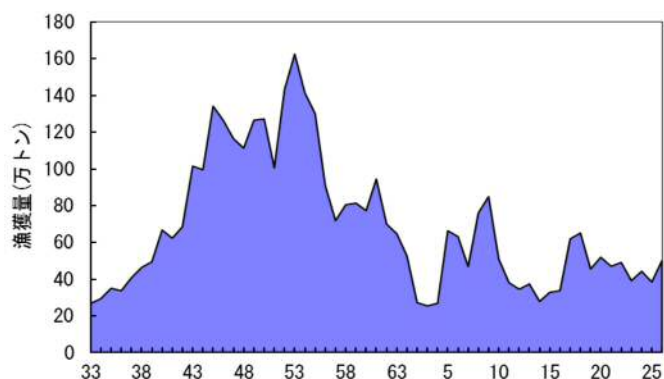


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 県内の平成28年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甑島周辺、天草西沖で漁場が形成されました。

薩南海域では、野間池沖、津倉で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、ゴマサバ中（2～3歳魚：平成26・25年生まれ）主体に期全体で1,953トンの水揚げで、前年の41%及び平年の48%と低調に推移しました。

### 3. 県内の平成28年10～12月期の見とおし

漁獲の主体はゴマサバ豆（0歳魚：平成28年生まれ）で、小（1歳魚：平成27年生まれ）、中（2～3歳魚：平成26・25年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

今年の漁獲量は、前年・平年を大きく下回っているものの、8月以降、豆主体で推移し、今後も継続して漁獲されると見込まれることから、前年を下回り・平年並と考えられます。

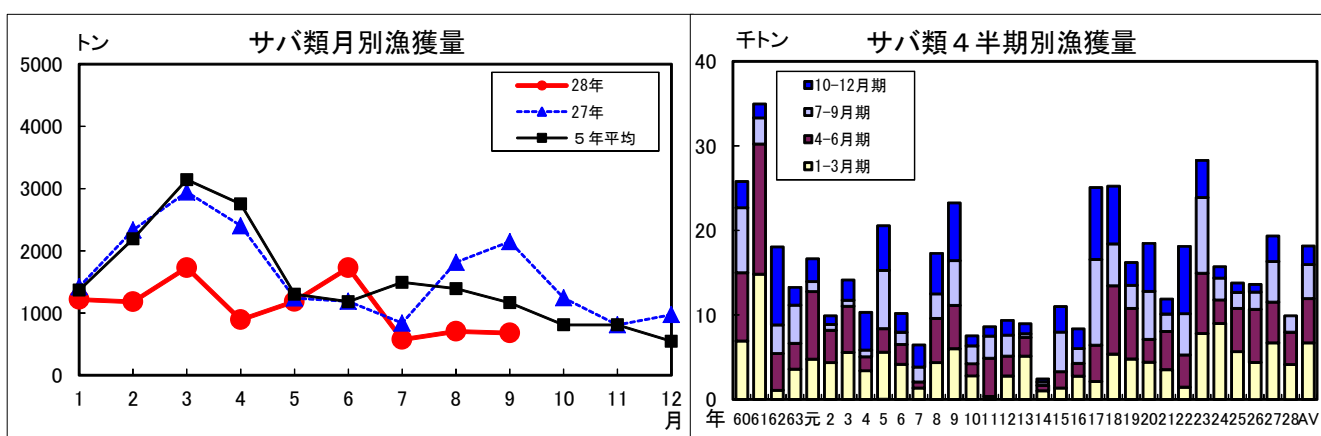


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)、平成28年9月28日までの水揚量を使用

# [マイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加し、平成25年は22万トンで14年ぶりに20万トンを超える漁獲がありました。

平成26年も20万トンと前年を下回ったものの、増加傾向が続いています。

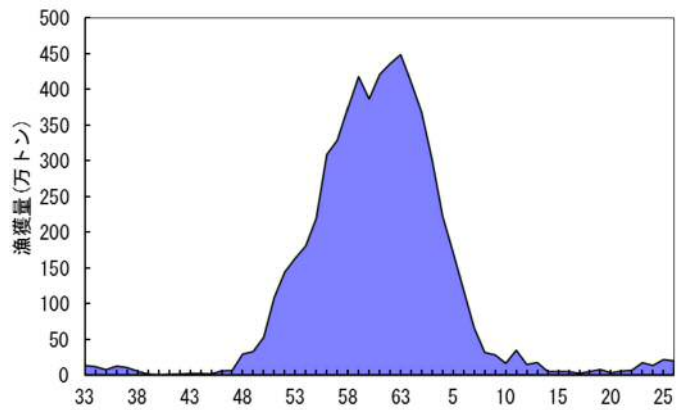


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 県内の平成 28 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、枕崎沖、内之浦沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、小羽～中羽(0 歳魚：平成 28 年生まれ)主体に 1,674 トンの水揚げで前年の 221%，平年の 131%でした。

北薩海域の棒受網は、136 トンの水揚げで前年の 126%，平年の 156%でした。

## 3. 県内の平成 28 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、小羽～中羽(0 歳魚：平成 28 年生まれ)でしょう。

来遊量は前年を下回り、平年並でしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる 0 歳魚(平成 28 年生まれ)は、8 月に前年を上回る好漁だったものの、9 月は低調となったため、来遊量は非常に好漁だった前年を下回り、平年並と考えられます。

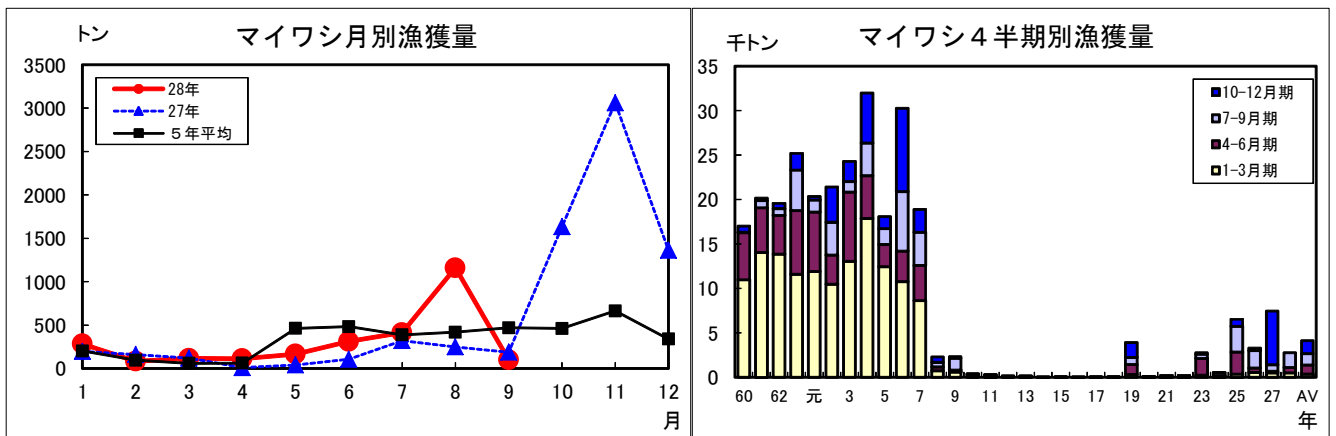


図 マイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年(平成 23～27 年)の平均値(AV)、平成 28 年 9 月 28 日までの水揚量を使用

# [ウルメイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成25年は8万9千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となりました。

平成26年は7万5千トンと前年を下回ったものの、高い水準を維持しています。

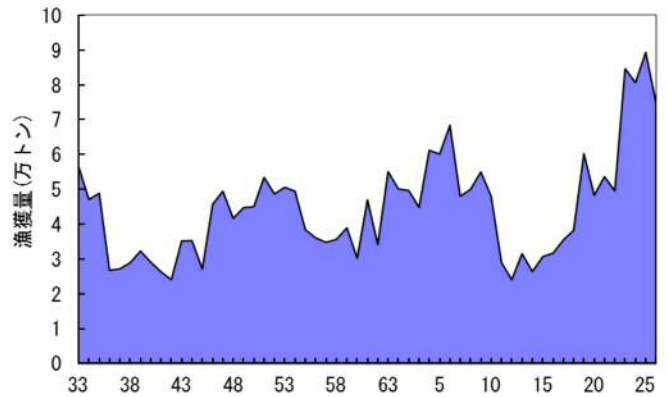


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

## 2. 県内の平成28年7～9月期の漁況の経過

北薩海域のまき網では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、枕崎沖、開間沖、野間池沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽（0歳魚：平成28年生まれ）、中羽（1歳魚：平成27年生まれ）主体に2,082トンの水揚で前年の399%、平年の88%でした。

北薩海域の棒受網では、892トンの水揚で前年の116%、平年の86%でした。

## 3. 県内の平成28年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（0歳魚：平成28年生まれ）でしょう。

来遊量は前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる0歳魚（平成28年生まれ）は、今期まで平年並に推移しており、来遊量は非常に好漁だった前年を下回るものの、平年並と考えられます。

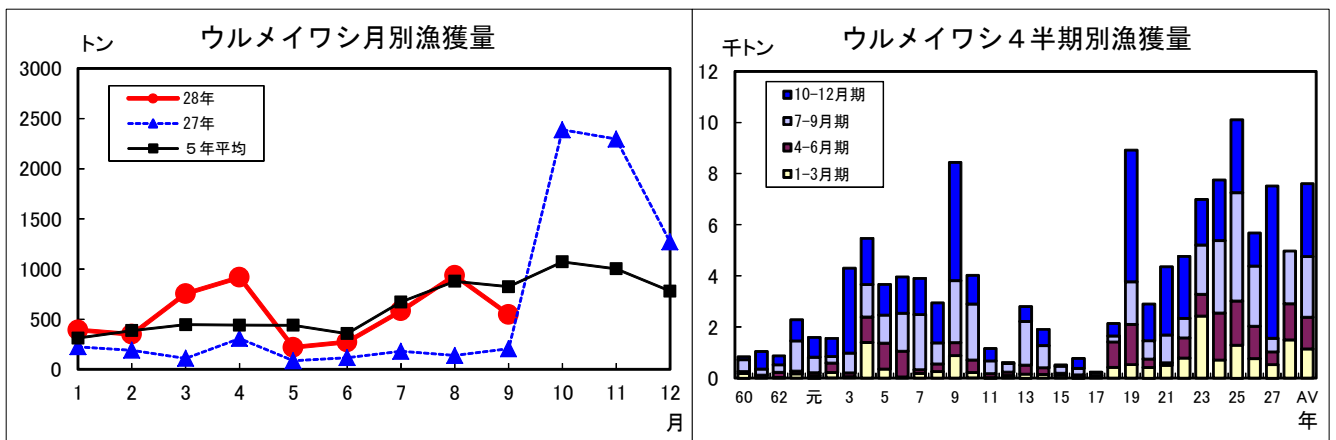


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値（AV）、平成28年9月28日までの水揚量を使用

# [カタクチイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成26年は24万9千トンとなりました。

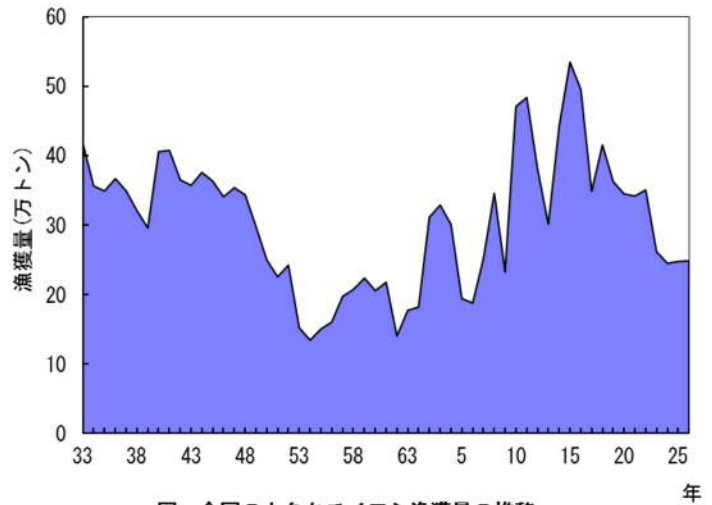


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の平成 28 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、長島（内海）、甌島周辺に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池沖、内之浦沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中羽（平成 28 年生まれ）、大羽（平成 27 年生まれ）主体に 1,382 トンの水揚げで、前年の 94 %、平年の 109 %でした。

北薩海域の棒受網では、川内沖、長島（内海）に漁場が形成され、152 トンの水揚げで、前年の 55 %、平年の 53 %でした。

## 3. 県内の平成 28 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽～大羽（平成 28 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年を上回り・平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

来遊量は近年好調で推移しており、今年 1 月以降の漁況も概ね好調を維持していることから、前年を上回り、平年並となると考えられます。

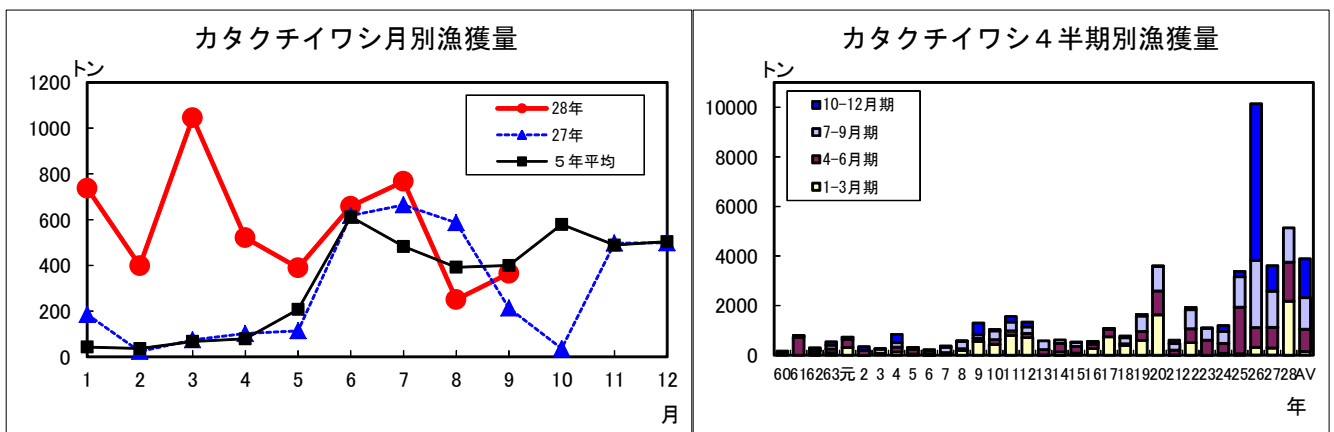


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 23～27 年）の平均値(AV)、平成 28 年 9 月 28 日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

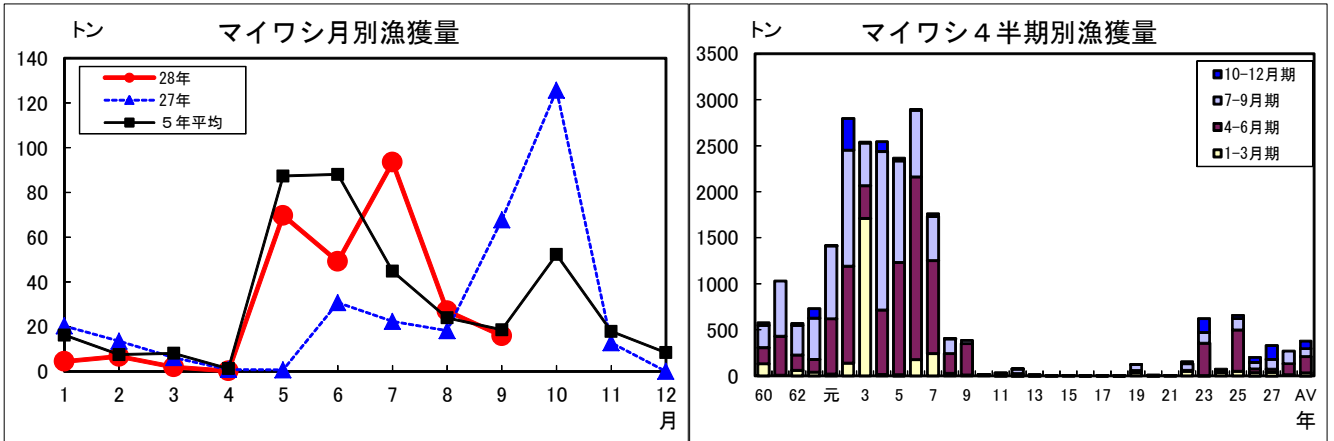


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

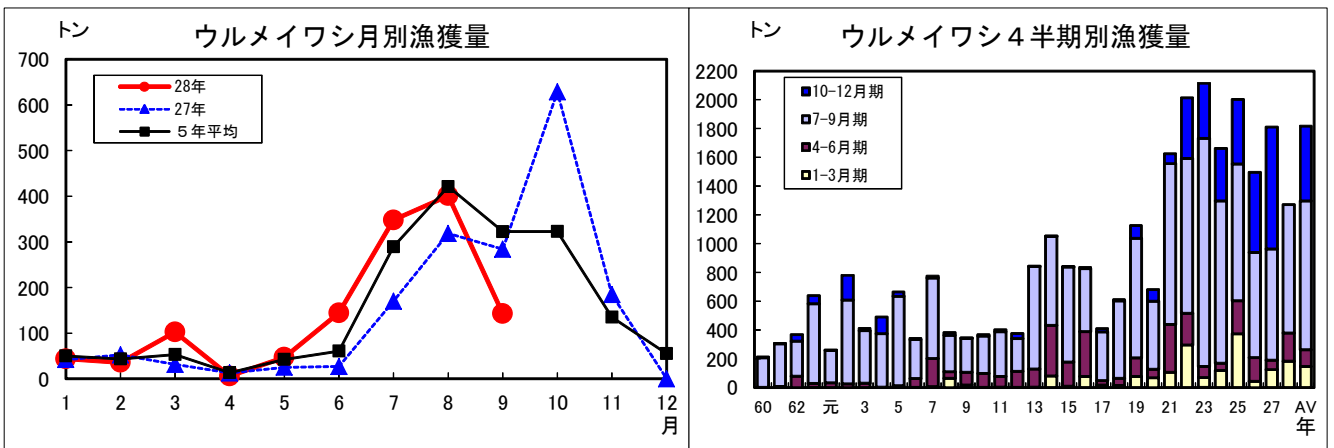


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

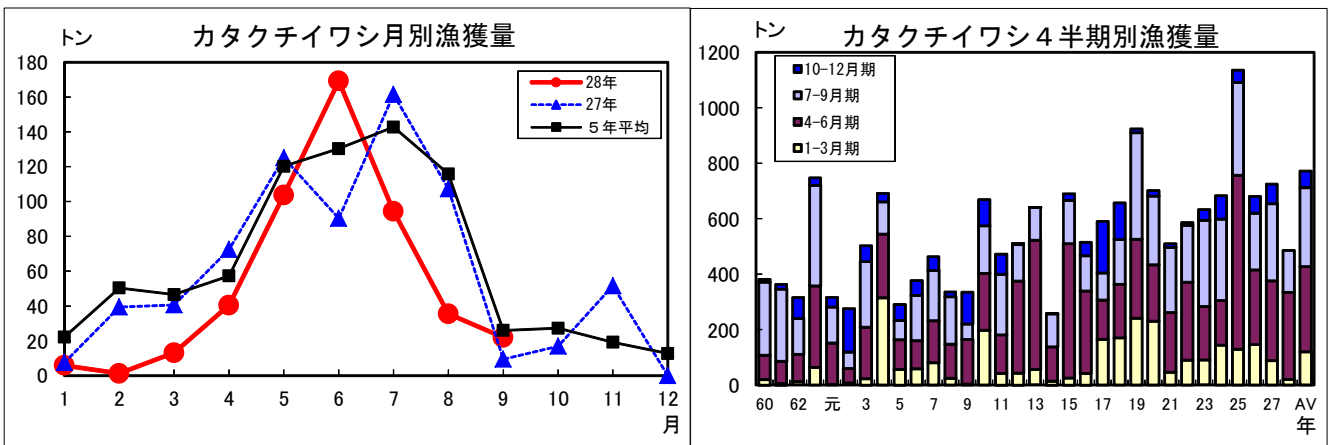


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成23～27年)の平均値(AV),平成28年9月28日までの水揚量を使用

**[参考：漁況経過のみ記載]**

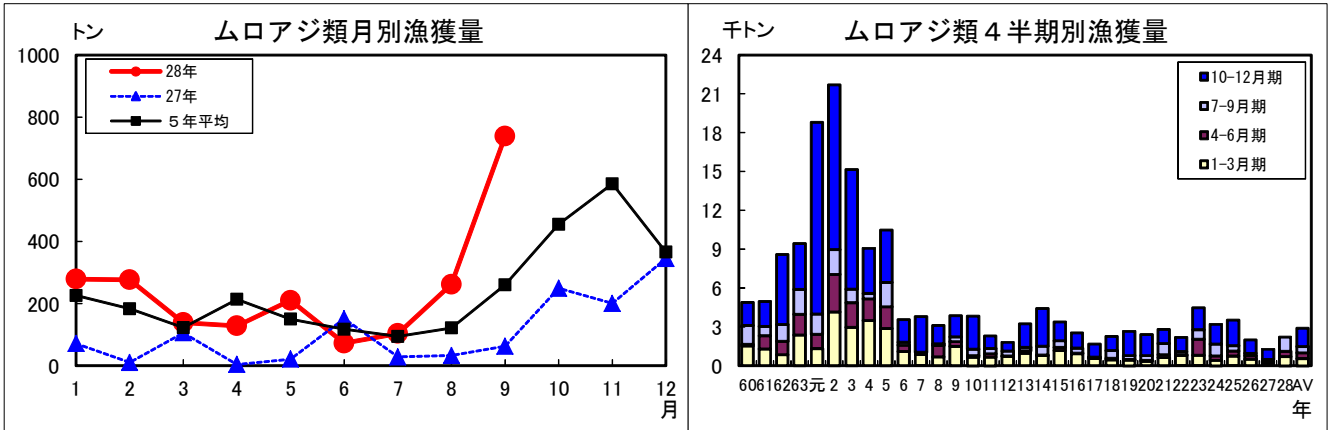
〈ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 県内の平成28年7～9月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンをピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間での推移しており、平成27年は1,281トンとなりました。

平成28年7～9月は、屋久島南東，種子島南，島間沖でクサヤモロ豆主体の漁場が形成されました。

期全体で1,104トンの水揚げで、前年の894%及び平年の232%と好調に推移しました。



**図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)**

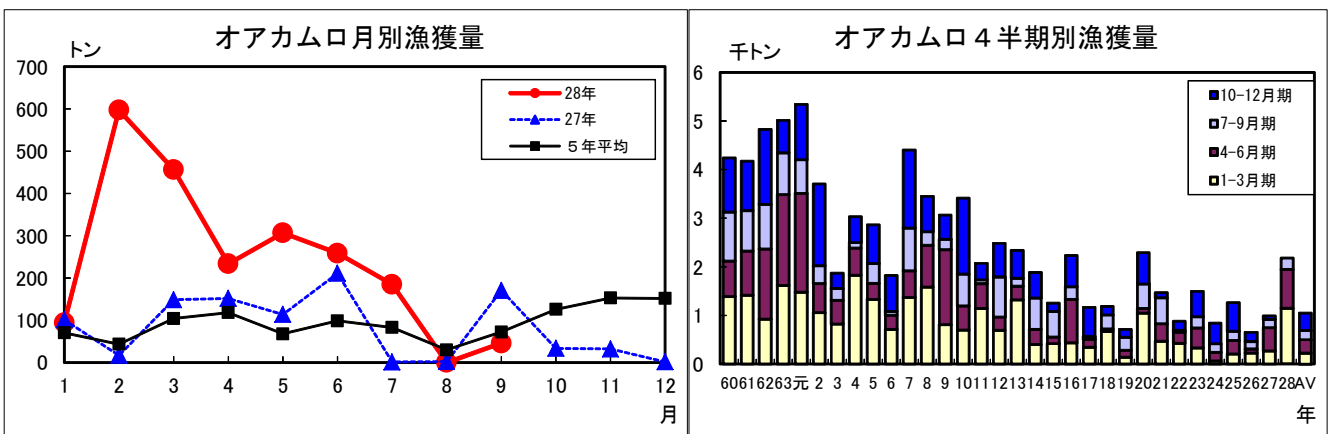
※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)，平成28年9月28日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 県内の平成28年7～9月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンをピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成27年は987トンとなりました。

平成28年7～9月は、屋久島南で中小主体の漁場が形成されました。期全体で231トンの水揚げで、前年の132%及び平年の124%でした。



**図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)**

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)，平成28年9月28日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 県内の平成28年7～9月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

その後、低い水準ではあるものの増加し、27年は706トンとなりました。

平成28年7～9月は、野間池沖で小・中主体の漁場が形成されました。期全体で58トンの水揚げで、前年の111%及び平年の74%と前年並で、平年を下回りました。

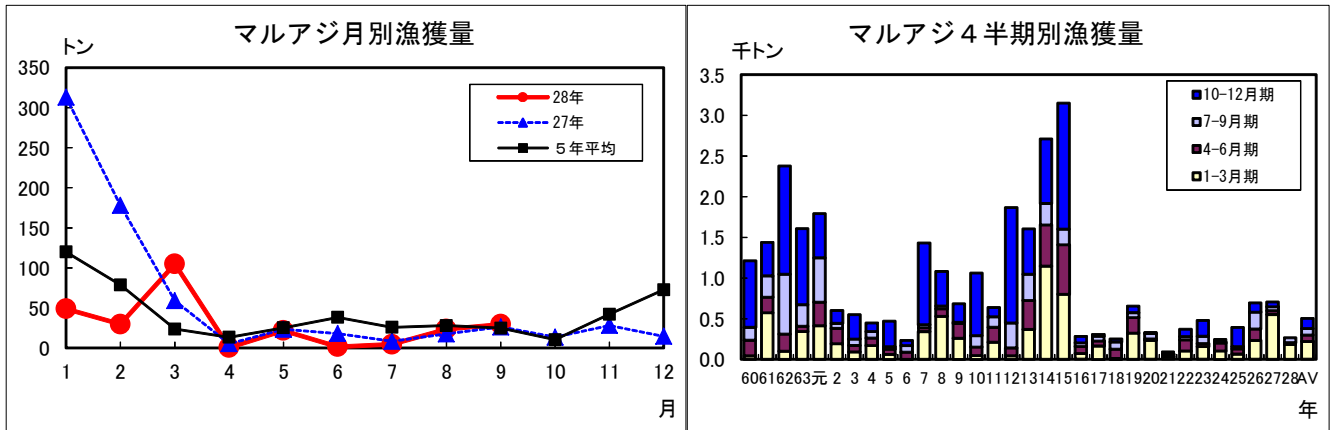


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)、平成28年9月28日までの水揚げ量を使用